

◇ 大 山 美佐子 議員

○ 5 番（大山美佐子） 質問いたします。

村道腰間線のガードレール設置について。

前回も質問しましたが、再度答弁に対し伺います。

村は、腰間線についての事業採択に向けて沖縄県とヒアリングを行っているとのことですが、どこまで進んでいるのか。

交通安全対策特別交付金を使いガードレール設置を視野に入れながら、早い時期にガードレール対策を考えると書いていましたが、どこまで進んでいるのか。以上伺います。

○ 村長（宮城功光） お答えいたします。

1 点目については、現段階では、まだ始まったばかりで、概算要求を行うか、どの事業での採択が最良なのかを見極めているところでございます。

2 番目については、交通安全対策交付金を視野に入れながら考えたい旨お答えしておりますが、補助事業との絡みがありますので、再度検討している段階にあります。

○ 5 番（大山美佐子） 前回もこの質問をし、令和元年12月1日の議会だよりには一般質問したのが記載されています。喜如嘉杣山へ行く村道腰間線は、亀裂が多く急カーブがあり対向車とすれ違うときは怖いという声があり、このような声がまた今度多くありました。6月からですが、6月から11月までの短い間に7名の方の必死な訴えがありました。一人の方は対向車に出会い、すれ違うときに左下に、上るときですね、左下に傾いたので怖かった、乗用車でのすれ違いではあったけれどもひやりとしました。もう一人の方は山に住んでいる方が福祉器具の注文があり、これは名護の方ですが、そこへ向かうと軽トラックとすれ違い怖かったとのこと。前に何度か山の友達の家を訪ねたが、久しぶりに訪ねたが、この山の左側を運転しているとこんなに怖い道だったのとか、山に住んでいる方々も慣れてるようだけど、まだ怖いとのことでした。今は特にシークワサー出荷の時期で軽トラックにシークワサーをすれ違った車も多い、すれ違いも多く、これが大型車だったらどうなるでしょうと考えるだけでぞっとするという言葉がありました。声がありました。この腰間線は山に上るとき、左下が崖っぷちになっています。山に登ると左下が崖っぷちになり、何か勾配が大きくというのかずっとこういう感じで山まで勾配が長いというのがひどいというのか、長くあり、とても怖いそうです。下

りは山手側になりますのであまり怖いことはない、もちろん対向車があったら怖いですが。7名の訴えを聞き危険を感じました。8年前には崖っぷちから落ちて亡くなった人もいました。何かあると役場の責任も問われると思います。一日も早いガードレールの設置と、道路のへこみ部分を、道路のガードレールをして、道路、ガードレールの下にへこみがあって、また行くとへこみがあります。この道を一日も早く直すこと、修繕することを再度そのことについて質問し、私の質問を終わりたいと思いますけれども、一日も早い、とにかく喜如嘉の道が勾配になっていて、本当に上ると落ちそうになります。それが非常に声が多いものですからとても心配しているところです。以上を聞いて、再度伺って私の質問を終わります。

○ 建設環境課長（新城 寛） 御質問にお答えしたいと思います。

まず村道腰間線、地形状況を考えるとなかなか厳しい道だと我々も認識しているところでございます。県のほうとのヒアリングを行うのに当たり、どうにか早い事業採択ができないかということで御相談をしておりました。そのときには公共施設の事業債、起債を使った事業はできないのかということで、そのほうにトライをしたわけですが、そのときにまた計画の策定が必要だと。その計画策定についても単費、そういうものがかかる

という話の中で、早い事業採択に向けたものを、その起債であるところに関しては今のところ断念しております。その後、今、根路銘上原線の後に社会資本あたりでやっていこうかなとは思っているところですが、みんな御存じのように根路銘上原線あたりもなかなか進まないような状況です。

一つまた、腰間線の特徴として用地の確保がやはり厳しい、以前から私村道を担当しておりますけれども、村道担当のときには用地がなかなか保存登記がされていない部分、そういうところでかなり厳しい部分があるということで、今現在、用地選定、今の道路の路線沿いの用地の確認をしております。それを踏まえて事業化に向けて行っていきたいと思っておりますが、先ほど議員お話されているように、上りに関しては左側は谷間になっており、かなり厳しい道だと思っております。ですからこそ、工法選択とか路線の確認をしながら、今事業化に向けてやっていこうかと考えております。

その中でやはり危険箇所に対応でございますけれども、へこみがある、路面に亀裂が入って乗用車ではちょっと、車の腹がつくようなところもございます。そこら辺に関しては単費のほうでどうにか通れるような形に持っていきたいと考えているところです。

あと村長の説明の中にもありましたように、ガードレールのみ直そうと

すると、交通安全対策交付金事業というものがあるわけですが、交付金を使うとなると補助事業になりますので、これも、補助事業が二重になった場合は返還あたりが出てきます。ですから、この交通安全に関しても慎重に扱っているところですが、そこら辺も視野に入れながらという話を以前の議会で私答弁をしております。この交付金を使うとなると、次道路改良が難しくなる。そこを踏まえて我々のほうも危険箇所をどうか事業採択まで持たせる意味でも、現場を確認しながら、少しずつ直しながら、事業採択を早めに行えるよう努力してまいりますので、よろしくお願いしたいと思います。

○ 村長（宮城功光） 今、課長が説明したとおりに早めに対策を取りますけれども、しかし、今聞きますとやっぱり交通事故とかで生命にも危機感を感じるような事案もあるようでありますので、その辺、へこみとかあるいは段差があるところも確かにあります。それをですね、やはり補助事業を入れてのガードレールの設置とかカーブミラーの設置というのは非常に厳しいわけなんですけれども、できるだけ単費ですぐにでも現場を確認して、対策を取りたいと思います。実は根路銘の海岸、河川沿いにガードレールが腐って危ないというときに、トンプロックを置いて対策を取っ

ている場所があります。そういうふうな形でもやっぱりやる必要があるんじゃないかなというふうに思っております。村の財産としてトンブロックが幾つかあるみたいですから、その辺を活用してガードレールが設置できるまでは、やっぱりその事業を投入するまでにはこういう対策も必要かと思っておりますので、この場で言いますけれども、今年いっぱい、今年度中にはぜひその辺の対策も取っていきたいというふうに考えておりますので、よろしく御理解いただきたいと思います。